

摂食嚥下障害を御存知ですか？



裏面もご覧ください。摂食嚥下障害のちょっとしたQ&Aがのっています。

せつ しょく えん げ 摂食嚥下障害Q&A



Q1 どのような原因で摂食嚥下障害になるんですか？

A1 脳血管障害(脳梗塞、脳出血、くも膜下出血)、パーキンソン病、痴呆(アルツハイマー型痴呆)、筋萎縮性側索硬化症など脳神経系器官の障害が原因となります。その他、精神の異常や先天的障害も原因となる場合があります。



アニングしたり、寒冷刺激で、飲み込む反射を思い出す訓練をします。

- 入れ歯がうまくかみ合わない場合も、飲み込むための筋肉を上手に使用できない原因になりますから、入れ歯の点検や補修、場合によっては新しくつくることによって、食べ物が飲み込みやすくなることもあります。
- その方に合った食事姿勢、食物形態や介助方法も考慮する必要があります。



Q2 摂食嚥下障害はどんな症状を起こすのですか？

A2 かなりたくさん症状があります。

- 食べ物をみても反応しない。
- 口の中にうまく食べ物を入れられない。
- 上を向かなければ飲み込めない。
- 食事中に食べ物やよだれが頻繁に口の外にこぼれる。
- 口をモグモグさせるが、口の中に食べ物がそのまま残っていたり、一向に飲み込まない。
- 飲み込むとムせる。痰の量が増える。
- 食後に、声の変化があったり、疲労が激しい。
- 理由もなく体重が減ってきた。
- 重度の場合、脱水状態や、栄養失調や肺炎を起こすことがあります。



Q4 入れ歯と摂食嚥下障害は関係があるということですが、他に歯科でどんな処置をしてもらえますか？

A4 口の中を清潔にすることが治療の第一歩です。歯や粘膜、舌にたまる歯垢舌苔などには、有害な多量の細菌が存在します。それをいろいろな器具でとりのぞいてあげることが、食べ物を食べる機能を回復させるのに、とても役に立ちます。また、誤ってつばや食べ物が気管や肺にはいった場合でも、肺炎等の重篤な疾患を防ぐことができます。オーラルケア(口腔ケア)といいますが、歯科の果たす役割の中では、最も重要な項目です。



Q3 どのような治療をするのですか？

A3 原因となった病気がある程度改善したらリハビリテーションをおこないます。

- 食べたり飲み込んだりする筋肉を、トレーニング



Q5 どこに相談に行けばよいのでしょうか？

A5 まずは、山梨口腔保健センター(山梨県歯科医師会内)にご相談ください。

